

## すいた環境サポーター養成講座 第2回目

日時：9/16(月・祝)10:30~16:00

場所：万博記念公園

### ◆水質環境調査

講師：特定非営利活動法人インクルージョンプログラムラボラトリ 水質調査係

万博記念公園自然文化園のもみじ川で、水生生物調査を体験しました。環境省が実施する全国水生生物調査方式の調査で、川底の生物を採集、分類、カウントして、川の汚れぐあいを判定します。指標生物となるのは水中で移動の少ない定着して生活する種類の生物です。

生物調査の説明を受けてから、実際に公園内の川に入り、生物を採集するところから体験しました。川底に落葉などが堆積しているところからは、トンボのヤゴ、石や草の陰からはヨシノボリ（魚）やヌマエビやスジエビなど、大阪府では絶滅危惧Ⅱ類のミナメダカも採取し、観察しました。

採集後に生物ごとに個体数をカウントし、調査票に転記し、水質判定をしました。結果はカワニナやヒラタドロムシが多くすむ「ややきれいな水」でした。

また、DOメーターと呼ばれる計測器を使って、水の汚れの指標の1つでもある水中の酸素量（溶存酸素量）を測る体験もしました。



身近な水環境に、予想したよりも多くの生物が生息していることに驚きながら、自然環境を保全する大切さを実感できる調査でした。



## ◆グループファシリテーション

講師：特定非営利活動法人大阪府民循環型社会推進機構 事務局長 逸見 祐司

### ・行動社会化経験プログラム

A.S.E（行動社会化経験）プログラムの実習を通じてグループファシリテーション法を学びました。

このプログラムは個人の社会性を育み社会環境の再組織化を目指したプログラムです。あらかじめ設定された課題に対して、グループがどのようにしてその課題を解決できるのか、そのためにグループの各メンバーの力を引き出すにはファシリテーションが有効な手法となります。



体験学習では学習者のニーズを踏まえ、個人や集団の行動変容を目指します。体験学習サイクルの各プロセスを通じて、受講者はファシリテーターに不可欠な「共にあること」、「受容すること」、「共感と同感の違い」等について学びました。

当日は A.S.E プログラムの一例として、以下の 2 つのアクティビティを体験してもらいました。

### ・ヒューマンチェーン

12 人各人の両手、全部で 24 本の手が複雑に絡み合う迷路のような状態から皆で知恵を出し合っ、ひとつ又は二つの人の輪（ヒューマンチェーン）を作ります。

この体験後すぐにふりかえりを実施します。「どうしてうまくいかなかったのか」、「どうすればうまくいくのか」を皆で考えます。成功するために「必要なことは何か」「自分の役割は何か」「どんな役割が足りないか」など、様々な意見が出ます。その後、もう一度、ヒューマンチェーン作りにトライします。このように体験学習のサイクルをまわしながらワークを通じて、「多様な人々が協働するには何が大切か」を話し合いながら、「コンセンサスの作り方」を学びます。

### ・魔法のじゅうたん

グループ全員の体重がのることで単なる新聞紙は「魔法のじゅうたん」となり、空へと飛び立ちます。小さなじゅうたんに全員が乗るのは大変ですが、このじゅうたんが無ければ、危険な場所から脱出できません。この状況設定の下、課題をどのように解決するのか、またそれぞれ違うみんなの考えを生かすには、どのようなファシリテーションであればよいのかを考えていきます。

プログラム後に「PM 理論」といって、「目的遂行が一番大事という考え」、反対に「人間関係が一番大事という考え」との関係性から学んだことの生かし方及び、PDCA サイクルなどについて学びました。

◆ふりかえり

第2回目も、個人でのふりかえり、グループでのふりかえりをして、終了しました。